

“ みんなで守る郷土の自然 ” 選定地域

区分	選定地域名	市町名	概要	面積 (延長)	備考
A	六日市(樋口)カタクリ自生地	六日市町	六日市町樋口の民家の裏山の一面(30m×40m)が自生地になっている。4月が開花シーズン。	1,200m ²	
A	邑智町ホンシャクナゲ自生地	美郷町	国有林内の谷沿いの急峻な岩場に自生している。5月の連休が見頃である。	14ha	邑智町花
A	差海川ハマナス自生地	出雲市	差海川左岸の河口附近に自生しているが、保全対策を必要としている。	100m ²	湖陵町花、県の天然記念物
A	若杉の天然林	益田市	板井川地区若杉に、杉、樅の巨木が群生しており町のシンボルとなっているとともに、山陰側と山陽側の間接植生を呈しており学術的価値が高い。	5ha	
B	大万木山ブナ林	飯南町	標高1,218m、山頂附近は100年生に近いブナ林に覆われ、ブナ林観察会をはじめ、地元のシンボルとして保全されている。	250ha	県民の森
B	琴ヶ浜の鳴り砂	仁摩町	全国3か所ある鳴り砂の浜の中でも特によく鳴る砂である。	14ha	世界一の砂時計
C	日御碕カスミサンショウウオ生息地	出雲市	日本海から50m離れた日御碕灯台に近い地域に生息している。	375m ²	国立公園
C	猪目川カジカガエル生息地	出雲市	猪目川の上流から河口付近まで生息しており、4月から7月いっぱい鳴いている。猪目分校児童が観察や放流を行っている。	2km	
C	法吉ミスジカワニナ生息地	松江市	清流に生息する大型のミスジカワニナが市街地に近い所で見られる。	1km	
A	近藤ヶ浜ハマナス自生地	大田市	ハマナスの自生地の南限。過去何度か絶滅の危機があり、地元の人々の手により保護されている。	60m ²	県の天然記念物
A	常盤山カシ林	金城町	浜佐八幡宮の裏山は日本海側の典型的なウラジロガシ林の見られる西限と考えられ、大径木のもが揃っている。	1ha	境内のスギは県の天然記念物
A	油井のスイセン群生地	隠岐の島町	1~3月に花開く野生のスイセンは香り高く春の気配を届けてくれる。県下最大の自生地。	特定せず	国立公園
B	星上山	松江市	星上山には、ブナを含む自然度の高い森が残り、ギフチョウをはじめとする昆虫相も豊富である。	5ha	
C	布部ハッチョウトンボ生息地	安来市	布部ダムの下流の繁殖地で、6月頃には約千匹の大群が見られる。ゲンジボタルも多い。	400m ²	
B	二条川の自然(ゲンジボタルとカジカガエル)	益田市	高津川水系白上川支流二条川は、ゲンジボタルの生息地であり、また、カジカガエルも生息している地区のシンボルとして親しまれている。	3.8km	

区分	選定地域名	市町名	概要	面積 (延長)	備考
B	長浜海岸(園の長浜)	出雲市	神戸川河口から差海川河口に広がっている砂浜海岸。クロマツ林、ハマゴウ、コウボウムギ、ハマエンドウ、ネコノシタ、ハマニガナなど豊かな植生がある。	8.0km	自然環境保全地域候補地
B	鯛の巣山ブナ林	奥出雲町	標高1,020m。ブナ(2次林)、コケイラン、クロモジなどが自生している。地域のシンボルとして保全が図られている。	90ha	
C	津和野ゲンジボタル生息地	津和野町	津和野町部栄附近の津和野川は、古くからゲンジボタルの乱舞が見られることで知られている。	4ha (2km)	
A	三隅大平桜	三隅町	樹齢300年以上の巨木。昭和10年国の天然記念物に指定されてから地元で保全、保護活動が取り組まれている。		国天然記念物
A	池村の杜(八幡宮の社叢、大元神社跡の楠)	日原町	イチイガシ(幹周6.5m、高さ34m)を中心にした社叢は、県下でも稀な群落をなし、北方系と南方系の植物が混在し、学術上も貴重な森である。周囲12.5m、高さ51m、樹齢400年。南方系のクスノキが山陰の内陸部にあるのは大変珍しい。	1.5ha 600m ²	県天然記念物
A	愛宕千年杉	柿木村	椋谷地区白井の愛宕神社。周辺にはスギ、トチなどの巨木があり、村のシンボルとなっている。	特定しない	
A	賀茂神社の社叢	邑南町	阿須那地区の賀茂神社。カヤ、イチイ、スダジイ、スギなどの大木を中心に保護されている。	7,035 m ²	
B	焼火山社叢	西ノ島町	焼火山中の焼火神社附近は、ウラジロガシを中心とする良好なカシ林が残存し、種々の植物群が多く見られる。	33ha	県天然記念物
A	赤穴八幡宮社叢	飯南町	地方屈指の古社。幹周3m以上の巨木が10本ある。千年杉といわれる夫婦杉やイチョウとスギの連理の木など興味深い。	1ha	
A	比婆山インヨウチク自生地	安来市	比婆山山頂には、タケの幹にササ様の葉をつける竹の群落があり、植物学上貴重である。	5ha	県天然記念物
C	瑞穂オヤニラミ生息地	邑南町	瑞穂町内の河川に生息するスズキ科のオヤニラミを保護しようとするものである。		
A	大江高山イズモコバイモ自生地	大田市	大江高山の東斜面に自生地がある。イズモコバイモは島根県にだけ自生している貴重な植物で、近年保護活動により株数が増えてきている。	1ha	
C	吉田地区ホタル生息地	安来市	吉田川に生息するホタルを保護するため清掃活動や水質浄化などの保全活動が地元住民により行われている。	0.01ha	
B	船通山	奥出雲町	山頂にはカタクリの群生地があり、毎年たくさんの花を咲かせる。植物の種類も多く、陸産貝類、土壌生物等の昆虫も生息している。	山頂付近の自然林	国定公園
B	吾妻山	奥出雲町	比婆山連峰の西側に位置し、山頂は広島県との県境。大膳原地域には雄大な草原が広がる。	山頂草原植生及び周	国定公園

				辺の自然林	
C	大社町ホタルの生息地	出雲市	出雲大社を中心とした自然環境の中、吉野川、素鷲川ではゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタルの3種が共生している。		国立公園
B	隠岐自然回帰の森	隠岐の島町	大満寺から葛尾山に連なる山々一帯の自然林。隠岐の大昔からの自然を物語る豊かな動植物相がみられる。	人工造林地を除く	国立公園
B	安蔵寺山ブナ巨木林	日原町	標高約800mから山頂にかけてブナの巨木が多数あり、林の中には様々な植物がみられる。	縦貫コース 5,100m	国定公園
B	都賀本郷宮の杜	美郷町	由緒ある宮が多く鎮座する。境内には巨木が立ち並び、動物、鳥類が生息している。		
B	弥畝山ブナ林	弥栄村	昆虫や野鳥等の小動物が生息しており、樹齢百数十年といわれるブナが林立する。		
C	赤川ホタル生息地	雲南市	斐伊川支流の赤川は、ホタルの生息地となっており、町が「ほたる保護条例」を制定している。	赤川 150m	
C	久保川自然回帰への森ホタル生息地	美郷町	ホタルの生息地であり、水辺の昆虫や野鳥も多く生息する。生態系が守られている場所。	久保川 3,000m	
C	朝倉オヤニラミ生息地	六日市町	オヤニラミの生息地。町の天然記念物に指定されている。	3ha	
B	物部神社社叢	大田市	すべて神社林。野鳥、小動物が生息し、自生蘭等の植生がみられる。観察路あり。	5.2ha	
A	西アキヤのカタクリ群生地	隠岐の島町	急峻な山の斜面に位置し、中腹から山頂にかけてカタクリ群生地がある。	0.5ha	
C	あずまがわ東川ホタル生息地	江津市	江津市浅利町を流れる東川に生息するホタルの保護活動が行われ、ホタルが多数発生するようになった。	1,500m	
A	猿政山自然林	奥出雲町	県東部で最も高い山である。山頂付近には、ブナの原生林が残っており、野生動物も多く生息している。	山頂付近	
C	高津川オシドリ飛来地	日原町	清流高津川の河原に毎年オシドリが飛来するようになり、年々数が増えている。保護啓発活動も積極的に行われている。	55,000 m ²	
C	大谷地区ホタル生息地	松江市	大谷川上流に生息しているゲンジボタル・ヘイケボタルの周辺環境整備や保護が行われている。	1,500m	
C	オキナグサ自生地	奥出雲町	オキナグサの自生地。道路沿いに自生しているため減少傾向であるオキナグサの保護対策が行われている。	0.5ha	
C	深山川ホタル生息地	出雲市	深山川上流に生息しているゲンジボタル・ヘイケボタルの周辺環境整備や飼育、増殖活動が積極的に行われている。	1,500m	
B	瑞穂ふるさと里山再生地	邑南町	町有地であり荒廃化が進む山林を、行政(町)・ハンザケ自然館・地元住民により、自然との共生を目指した里山保全づく	11ha	

			りが行われている。		
B	川跡ビオトープ	出雲市	休耕田を利用したビオトープ。斐伊川の本流から用水路を経由して水を導入し、水生生物を飼育保護している。環境学習の一環として利用され、保護啓発活動が積極的に行われている。	1,600 m ²	
C	八代ハッチョウトンボ生息地	奥出雲町	休耕田にハッチョウトンボが生息し、ここ数年発見することができる。周辺環境整備など保護活動が積極的に行われている。	1ha	
A	川本町イズモコバイモ自生地	川本町	イズモコバイモの群生地。道路沿いに自生しているため、減少傾向であるイズモコバイモの周辺環境整備や保護啓発活動が積極的に行われている。	2 ha	
C	八千代川カジガガエル生息地	出雲市	八千代川上流に生息するカジガガエルの周辺環境整備や観察会等、保護啓発活動が積極的に行われている。	500m	

A : 植物	17 箇所	} 計 51 箇所
B : シンボルの自然	16 箇所	
C : 動物	18 箇所	